



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



かばんと共に進化を続ける元気人

豊岡とかばんへの愛情が自らを奮い立たせる…。世界有数の賞を手にして、なお進化を続ける元気な男性を紹介します。

由利佳一郎さん(49歳)中央町

日本製かばんの一大産地、豊岡市。この豊岡から世界へ、かばんと共にその名を轟かせているのは、アーティスティックディレクターの由利佳一郎さん。

豊岡のかばんが世界一に

由利さんは、イタリアのミラノで開催された世界最大規模のかばん見本市「ミペル・バッグ・ショー」のスタイル&イノベーション部門で最高賞のミペルアワードを受賞しました。初出展で受賞の快挙に「革新的なデザインの中に和のテイストを取り入れたレディースバッグが高く評価され感激です」と喜びを語ります。

テーマはCURVE(カーブ)

このショーにはイタリアを中心に世界の約400社が出展しています。由利さんは、日本皮革産業連合会の推薦で日本ブースに出展。豊岡のかばんは紳士用が中心。でもファッション業界の一番のターゲットは女性です。今回挑戦したレディースバッグは、オール皮革でやわらかく、カーブ(曲線)で仕上げました。内側は巾着状で、生地には京都の西陣織を使用、ひもは帯ひ

も風にしていきます」と話します。

CGからかばん業界へ

由利さんは、大学卒業後、東京の商社に勤め、流通やマーケティングを学びました。その後、商社を辞めてコンピュータグラフィック(CG)関連の会社を設立しました。「仕事が軌道に乗ってきた平成17年ごろ、『これからの時代はものづくり』と考える父から、豊岡に帰ってくることを勧められました。年齢的にも今が、かばんの世界に入るラストチャンスかな…と思いましたね」

オンリーワンの豊岡ブランド

「アートフィア」の誕生

かばんについては全くの素人だった由利さん。ブランドを立ち上げるにあたり、マーケティングを実施。「豊岡はOEM中心でしたので、かばん作りの技術はあっても自分たちでブランドを作るといふ考えはありませんでした。そこで、どこを狙えば認知度が上がるかを考え、画材かばん類のデザインや機能性が未開発であることが分かりました」と振り返ります。

そうして誕生したのが由利さんの代名詞とも言える「ユ

ーダレスバッグ」。スケッチブックが縦に入る「F」サイズを基準に制作。この時点で他のかばんとの差別化が図られました。「商社でのマーケティングの経験、3DCGの技術が役に立ちました」と笑います。

デザインからファッション

そしてモードへ

平成21年に、ドイツの工業デザイナーのオスカーといわれる「IFデザイン賞」を日本のバッグメーカーとして初めて受賞。平成22年から2年連続フランスの見本市会場で開催された「メゾン・エ・オブジエ」に出展しました。「これからは、服に合わせてかばんを選ぶのではなく、かばんに合わせたスタイリングを提案していきたいですね。次の狙いはパリコレです」と自信をのぞかせます。

海外メーカーからのOEM依頼もあるとか。「より消費者に近い、顔の見える産地になりたいですね。他の地で作った売り売つたりせず、豊岡に買いに来てもらいたいです」。

世界が認める豊岡の技術と伝統。由利さんの手で、さらに進化を続けることでしょう。

※マーケティング…企業が製品やサービスを顧客に向けて流通させることに関係した一連の体系的市場志向活動
※OEM…他社ブランドの製品を製造すること ※3D…3次元

学校探検

中学校編 ①

豊岡南中学校(豊岡)

案内者 平野宗太朗くん(3年4組)



豊岡南中学校の在校生は585人です。校門をくぐると左手に卒業生が植え育ててきた「同窓の森」があります。今では、木も大きく育ち、地域の



▲校舎(右)と同窓の森(左)

同校に通う生徒会長の平野宗太朗くんは、陸上部に所属し、長距離を専門に、日々、走り込みの練習を続けています。「記録会で良いタイムが出ると自分の力がついていることを実感でき楽しいです」と笑顔で話します。今回は、長距離のリーダーとしても活躍する平野くんに豊岡南中学校を紹介してもらいました。

豊岡南中学校では、特徴ある取組みが三つあります。「清掃ボランティア」、「あいさつ立番」、「リサイクル活動」です。「清掃ボランティア」では、柳まつり後の周辺のごみ拾いと定期的に学校周辺のごみ拾いを行っています。掃除をすると、学校がきれいになってとても気持ちが良いです。

「あいさつ立番」は、その日の当番のクラスの学級委員長と副委員長が学校昇降口に立ち、あいさつを行います。朝早く家を出ないといけないので、大変ですが、「あいさつを増やしていこう」という思いで取り組んでいます。

「リサイクル活動」は、プルタブ、ペットボトルキャップ、ベルマークの三つを集める予定です。今年は、特にペットボトルキャップの回収に力を

入れたいと考えています。集めたペットボトルキャップを関係団体に送り、ワクチン購入のために役立ててもらいます。キャップのことをいつも意識していると集められますし、昨年は家族にも協力してもらいました。たくさん集まると貢献しているという感じがします。

また、安全を再認識する機会として毎月「6」の付く日のうちの1日を「安全の日」と設定しています。この日は、地域の方々に通学路の要所に立つてもらい、見守り活動・あいさつ運動を行っていただいています。

今後も僕たちは、これらの取組みだけでなく、授業や部活動に主体的に取り組んでいこうと思います。



▲部活動の様子

笑顔の輪

パワフルに楽しんでいます

倶楽部103(城崎)

倶楽部103は、ダンス部、よさこい部、スポーツ部の3種の部があるクラブです。

同クラブは、今西美雪さんと森田智子さんが、ダンスをやりたいと、平成19年に立ち上げました。クラブ名にも2人の名前(10=智子さんの「と」、3=美雪さんの「み」)が入っています。翌年には、「よさこいもやってくれないか」との要望に応えて、よさこい部を増設。

現在は、原則、ダンス部の活動が、日・水曜日、よさこい部は月・金曜日です。スポーツ部は主に二つの部のイベントがない冬季に活動しています。

当初11人だった会員も現在は約30人に増え、小学1年生から40代後半までと幅広いとなっています。



▲本番で躍動するダンスを披露

森田さんは「きちんと踊るとカッコ良くて、親子でも踊れて楽しいです」と魅力を語ります。

4月25日夜、城崎小学校の体育館ではヒップホップの音楽が流れ、「見てえなダンス」の本番を控え、弾けるようなダンスが展開されていました。小学1年生の会員は5人いますが、この日参加していた岸本陽菜乃さん、谷口ももこさん、田中莉子さんの3人は「気分が良くない時もダンスを踊っていると楽しくなる」と笑顔で話していました。

よさこい部は平成22年から開催の「城崎で!!よさこいとか祭」で活躍しています。

見学・入会歓迎です。希望者は森田さんまで。☎0901219916876